

令和5年度 芸術科 美術I シラバス	単位数	学年・学級	使用教科書・副教材等	担当
	2単位	第1学年 1～9組	高校美術I：日本文教出版	城間 大輔

学習目標

(知識・技能) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(思考力・判断力・表現力) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(学びに向かう力) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

内容と評価の方法

- ・学習活動への参加状況（制作へ取り組む姿勢、参考資料の準備・用具の用意と片付け）
- ・制作した作品（試作品など制作の全過程）
- ・ワークシート（アイディアスケッチ、自己評価、振り返り、鑑賞活動など）
- ・制作計画シート

学習計画及び評価基準

学期	月	題 材	指 導 内 容	評価の観点
一 学 期	4	オリエンテーション 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の課題や授業への取り組み方、評価方法についてパワーポイントにて説明。 ・教科書掲載作品鑑賞して気に入った作品のスケッチ気に入った理由を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標をもつ。 ・教科書とワークを活用してスケッチして気に入った理由を語ることができる。
	5	色彩の理解 ～アクリル絵の具の特徴～	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の基本的な性質について知る。 ・色調や色の組み合わせを理解し、用具の使い方やタッチにより伝えたいイメージを表現する。 ・アクリル絵の具の特徴を理解して、特性を生かした表現をする。 ・作品を展示鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の特性や働きを理解し、伝えたいイメージを創意工夫して表現できる。 ・自他の作品を通して表現の工夫など感じる事ができる。鑑賞の良さや楽しさを感じ取る。
	6	鑑賞		
	7	風景画 (アクリル画) 「校内風景」	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所や新たな発見を基に校内風景を描く。 ・水張り技法、構図や遠近法について理解する。 ・遠景、中景、近景の組み立てや色彩の変化を理解させじっくり観察してスケッチさせる。 ・アクリル絵の具の特性について理解し、着彩する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風景から感じ取った印象を表現するための構図を考える。 ・構図の取り方、光と陰影、コントラストを意識して絵の具の特性を生かすことができる。
8	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品を通して、表現方法や感じ方の多様性を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品を通して表現に対する考え方や工夫など感じ取る。 	

二 学 期	9	ステンシル (版画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題「動植物」 ・ ステンシル技法の概要と特徴、型紙の線がすべて繋がっている表現であると理解し、構想を練る。 ・ 切り口の造形の味わいと色彩構成と明暗のコントラストの美しさを感じとる。 ・ 下絵（構図）を描き、型紙制作を進める。 ・ 台紙となる画用紙（黒または白を基本とする）へアクリル絵の具を用いて色を差していく。 ・ 鑑賞を通して、他者の作品から表現方法の多様性を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケッチを基に、表現したいものの特徴をとらえデザインすることができる。 ・ 用具（カッター、カッターナイフ）を効果的な使用と、安全に扱うことができる。 ・ 色彩構成、技法やコントラストを工夫して表現できる。 ・ 自他の作品を通して感性的共感・共有ができ、表現の工夫も感じ取る。
	10	鑑賞		
	11	絵てがみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送る相手を思いながら、はがきサイズに文字とイラストを構成していく。 ・ 全体的印象やユーモアなどを大切に表現になるよう工夫する。 ・ 自他の作品を通して、表現のおもしろさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの手段を楽しむことができる。 ・ 文字とイラストの構図を考え、こじんまりとしないように描く。
12	鑑賞			
三 学 期	1	立体表現 (陶芸) 「モニュメント・オブジェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陶芸の特徴について学び、日常生活を豊かにする立体的な装飾品をデザインする。 ・ 制作工程について学ぶ。 ・ 陶土による制作 ・ 展示レイアウトについて話し合い、発表の準備をする。 ・ 鑑賞発表を通して、立体表現の面白さや工夫を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陶芸の特徴について理解する。 ・ アイディアスケッチを基に表現したいものを立体的に捉えて、構造をイメージして創造できる。 ・ 自他の作品を通して表現の工夫も感じ取る。
	2 3	鑑賞		
		美術 I のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品整理 ・ 美術 II での制作姿勢を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学んだことを振り返る。

☆美術の授業は絵をうまく描くための時間ではありません。自分の考えていることや頭の中のイメージ（他人から見えないもの）を、他人へ伝える力を学ぶ時間なのです。そのために大切なことは「考える」「気づく」ことです。授業中は、どうやったら主題にそって自分の考えをうまく「視覚化」できるのか。よく「考えて気づく」時間にしてほしいです。 美術教科担当より